

令和4年度 学校評価書 (教職員評価の結果と考察)

東近江市立能登川北小学校

令和 4年 12月20日作成

<本年度の重点目標>

- 学ぶ力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

<評価基準>

- A=優れている(優れている状況にある・数値基準90%以上)
- B=良い(良い状況にある・数値基準80%以上) ※B評価を細分化し、B+、B-を追加している。
- C=おおむね満足(課題はあるがおおむね満足できる状況にある・数値基準70%以上)
- D=要改善(課題が多く速やかな改善が必要な状況にある・数値基準70%未満)

<自己評価の総評>

総合評価【B】

○学級通信を定期的に発行し、子どもたちの学校での様子を保護者に知らせることができた。また、学校での子どもたちの様子で特に全体で気になることがあれば、通信や週予定などで知らせ、子どもたちにも保護者にも周知することができた。

○子どもたちの言語活動を充実させるために、国語の時間などに言葉遊びを取り入れたり、みんなの前で話す機会をたくさん設けたりした。少しずつ話す力はついてきているが、全員が「相手に聞こえる声の大きさで」「相手の顔を見て」言えるようになってきた。

○小学校生活の見通しとして、1日の流れや授業の流れを示すようにした。1学期に比べ、落ち着いた環境の中で生活ができていっているように思う。

○学習に向かいにくい雰囲気や学級に入り、学習のポイントを押さえたり、めあてを明確化したりすることで、学習に向かう気持ちを育てている。

○課題の多い学級に入り、不適切な言動について振り返って考えさせたり、善い行いをしている児童を見つけてほめたりすることで、児童の自己肯定感を高めている。

○くりみっこマラソンで100周達成した児童の表彰に立ち会い、粘り強く取り組んだことを賞賛している。

○保護者対応や電話対応で、気持ちよく応対することを心がけ、保護者や地域からの信頼を得られるよう意識している。地域の方からの協力に対して、丁寧に礼を伝えるようにしている。

○子どもたちが安心して学校生活が送れるように、子どもの思いを聞いて、話し合いをしたりして納得できるようにした。

○子どもたちの学力の定着のために、自分の考えを友だちに伝えたり、教え合ったりするなどで学びが深まるような授業展開をした。

○保護者との連絡も密にとりようし、保護者の方が安心してできるように個別に対応した。

○びわこ100周マラソンや九九暗唱は全員クリアし、学級の学び合う雰囲気や課題を最後までやりきることを大切にしたい。

○学ぼうとする姿があるし、環境も整えられているが、考えられる子の姿としては、満足してはいけなそう。

○豊かな人間性はあるが、固定化され少数であることの弊害が起きないように学校にの教師たちの考えを柔軟にしておかないといけないと思う。変化を良しとすることができるように、多種多様な設定の工夫が必要なことと思います。

○家庭との連携をもっととりながら、と思うことがしばしばあったが、躊躇していることがある。より良い方向へと子ども自身が伸びられるように更に連携をしていこうと感じている。

○HPをはじめ、様々な場で、学校の情報を発信することで、保護者や地域の方とのつながりがしっかりとできていっていると思う。

○子どもたちの学びで、どこをやるのか、どう指導するのかについてなど、質問をすればほかの先生から答えてもらえるので、教員同士のつながりがある。

○子どもたちのよりよいものを求める意欲的な姿はどうか維持できているように思う。

○優しい子どもたちだが、よくわからず失礼が言葉を使う場面があるところを改めていく必要がある。

○心配していたが、2学期は意外に屋外での活動にも取り組んでいた。

○長い欠席を要する児童が何人か出たが、お陰で家庭との接点が大きくなったように思う。

○子どもたちの前向きな姿勢に助けられ、学級経営については比較的上手く機能していると思う。現状に満足せず、子どもたちについてきた力を生かして、次のステップへと段階的に場を設定することで子どもたちの成長を支援したい。

○校内研究主任、学級向上担当としての役割を十分に果たしているとは言えない。学期当初に方針を提案するものの、自身が学級担任ということもあり、全体の現状を把握できないまま学期末を迎えることになっている。もっとこまめにPDCAサイクルの流れを作らなければ、成果と課題すら見つからないまま1年間を終えることになってしまう。3学期にもっと力を注ぎたい。

○ICTを活用した学級、学校運営について、更なるアイデアを生み出したい。県や市の動向を待つのではなく、先を見越して実践していきたい。

○少人数集団であることから、相手のことがよくわかり、また仲良く生活できているように感じる。ただ、相手を固定してしまうことから、そのまま上級生に上がってしまうところがあり、そこが残念に思う。それが自動理解につながることもあり、教師としては、児童の様子を全職員が見守る形態となっているので、その点はありがたく思う。

○時間を守り、落ち着いた学習に取り組んでいた。

○友だち同士の関わりを大事にしなが、活動に取り組んでいた。

○マラソンの取組を中心に粘り強く取り組んでいた。

○学年通信を出しながら、丁寧に発信をされていた。

項	評価項目	成果目標・取組指標	1学期	2学期	自校の改善方針
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だより、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「くりみのこ」について知っている保護者を80%以上にする。	B+	B+	・「くりみのこ」について、子どもたちにも指導を続けることで、少なからずではあるが、子ども伝えて保護者にも伝えられると思う。 ・6年生をモデルとしたたてわり活動が定着しつつあるので、それぞれの発達段階に合わせて、たてわり活動への意識を高めていく段階にきていると思う。 ・くりみっこ賞をもらった子についてその週くらいで全校放送をつかって周知するなどできるといいと思います。 ・学校だより、ホームページは積極的に発信されていると思っている。・「くりみのこ」の浸透はまだ感じる場面には、出会えていない。・たてわり活動は充実している。小さな学校でできることは、まだまだあると思うが、増やせばよいだけでなく、現状維持を望み、活性化することができると感じる。 ・くりみのこは子どもへも保護者へもずいぶん浸透していると感じる。非認知能力の育成を狙っている点をさらに発信し続けていきたい。
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・年間を通して、たてわり活動の充実を図る。	B-	B	・「くりみのこ」については知らなくても、ホームページの発信内容から、目指すものはくみとってもらえていると思う。 ・各学年担任がそれぞれの思いでカリキュラムを組むのではなく、学校目標を軸にした学校ベースのカリキュラムを構成する必要がある。また、そのようなカリキュラムを作成できるように、職員への研修を必要とする。 ・「くりみのこ」の合言葉は、子どもの中によく浸透している。式の際に触れられているのも子どもたちの再認識につながっている。 ・今まではホームページの更新が毎日なされていたが、今後に向けて負担のないやり方(役割分担)を考える。 ・今後も「くりみのこ」を合い言葉にして学校経営を発信するとともに、学期末学年通信に項目を起こして実態や取組を発信していけると具体的な姿を伝えていく。
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・日々の学習と家庭学習を連動させる意識をもって指導に当たり、「子どもが自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」と答える保護者の割合を80%以上にする。 ・子どもが主体的に学ぶ姿勢を大切に、ノートづくりやめあてを意識した振り返りを通して、子どもたち自身が学びを実感できるような授業づくりに取り組む。	C	B+	・学級の中で、ノートづくりの見本を改めて紹介すると、見やすい・分かりやすいノートの再認識ができる。 ・週に1回図書室を利用している。毎週学校司書による読み聞かせを子どもたちは楽しみにしており、紹介してもらった本からいろいろ本に興味を持ち、楽しく読書をしている様子が見られた。家読の取り組みを2学期から始めたが、取り組みには差があるのが現状である。保護者に負担にならないよう取り組みの仕方を吟味することも必要である。 ・指導力の差が顕著に表れてきている。校内研で学んだことを日々の授業に生かす意識を高める必要がある。小さな学校だからこそ、交換授業等を積極的にやり、学校全体の指導力を高めていかなければならない。 ・全学年で統一して指導すべきことが曖昧になってしまっている。再度、全職員で確認し、足並みをそろえた指導を実践することが大切だと思う。 ・学習のスタートは教師がきちんと守る。 ・外国語主任を中心として、ALTとの意思疎通を図る。 ・朝の会、帰りの会を学級づくりの大切な時間として、きちんと意識づける。 ・子どもたちどうしが学び合えるような授業を展開するようにした。子どもたちが説明できる、話し合いができる、分からないといえる学習の雰囲気大切にしたい。 ・理解が深まらない子どもについては、個別に対応するなど支援をした。 ・九九については、全員がしっかりと覚えるように繰り返し練習をした。その結果、全員が九九を唱えることができた。 ・家庭学習の取り組みについては、保護者アンケートの結果から推察すると満足されていないし、こどもたちの家庭学習のイメージがどんなものかを知る必要があると思う。どの部分を見て満足されるのか。・ベル着は少しルーズな感じがある。(ベル着の推奨が必要か、ランダムな鳴り方なので)学習準備は整っていない。・掃除の始まりと終わりの少し振り返りがいい加減なところが見えている。担当場所の掃除が早く終わったら、作業の止まっているところがある。時間一杯させたいところだ。基本的には、真面目だが熱心さはない。動労意欲という点では、乏しく思っている。教師の実践する姿を見せることが大切だと思える。巡回だけにとどまらない。・図書館の利用については、好ましい状況で、授業の合間にも読みかけの本があるのは素晴らしいと思う。 ・子どもたちの「前向きにがんばろうとする気持ち」のお陰で、学力的に落ち込む子がいないが、油断せず新しい学力観に基づく授業改善を心がけたい。 ・タブレットPCは、有効な学習ツールとなっているが、子どもの創造性を育むための時間を奪う道具にならないようにしていきたい。
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導を徹底する。(学習準備、ベル着、学習のあいさつ、声のものさし、話し方、聴き方、鉛筆の持ち方等)	B	B	・座ったままの発言は、改める必要があるのかないのか? 全校的なルールが理解できていなかったのかも知れませんが、 ・学校司書さん、図書館主任さん、かぶらさんの連携のお陰で、本に親しむ姿勢が身についている。 ・毎日の宿題の一つに「学習時間が70分以上になるように、自主学・読書を加える」という項目を入れているものの、1学期はアンケートの結果が思わしくなかった。しかし、アンケートの問い方を「子どもが自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」というものに変えた結果、2学期は保護者からの肯定的な回答が80%を超えた。アンケートの数値が全てではないが、対策を講じても結果が表れない時には、問い方を練り直してみるのも一つの手であると感じた。 ・ひと昔前は、朝の会や帰りの会の時間に「当番スピーチ」なるものを組み込み、話す・聞く力の向上の一助とすることができたが、授業時間の確保のために朝の会・帰りの会が「10分」しか確保されていない現状では、朝の会は「朝の歌」と「事務連絡」、帰りの会は「今日のスター」と「事務連絡」で時間いっぱいになってしまい、とてもスピーチの時間をとることができない。「朝学習」の固定メニューの一つとして、どの学年にも「スピーチタイム」を入れてもいいのかもしれない。 ・わかった、できたと言ってもらえるよう、興味を示してもらえよう授業を行ってきた。交流学級でもわかる授業、自分で考え、表現する授業を意識してもらっているところがある。 ・家読とメディアコントロールがセットになっていて、読書が進められているのがよい。 ・研究授業で学んだことを生かせるように、どの教科でも実践記録に残せるように努力していく。 ・ドリル学習から少し離れた内容の宿題も定期的に取り組む。 ・ベル着を意識し、授業が始まる前に自分でできることを考えさせるようにする。 ・メディアコントロールデーをがんばって取り組んでいる様子を知らせ、意識を高めた生活習慣を見直したりするきっかけとする。
	⑤ 学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、読書が好きと答える児童の割合を80%以上にする。 ・メディアコントロールデーに合わせた家読の取組を家庭に啓発する。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に(図書バックなど)読書する本を常備させる。	B+	B+	・ALTが効果的な役割ができるように、事前の打ち合わせで積極的に提案していく。 ・朝の会や帰りの会でのスピーチのやり方を学年にふさわしいものにするために、取組の交流を行う機会があってもよい。 ・自主学習の取組状況の交流を行うことで、児童への声かけの内容がイメージできるかもしれない。 ・(学習準備、ベル着、学習のあいさつ、声のものさし、話し方、聴き方、鉛筆の持ち方等)から担任が気になる分野をピツ
	⑥ 英語教育(外国語活動)の充実	・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。	C	B	
	⑦ コミュニケーション能力の育成	・学習活動や朝・帰りの会で児童相互に伝え合う場面を設定し、話す力・聴く力の向上に努める。 ・授業中、積極的に自分の考えを話している児童の割合を80%以上にする。	C	B	

(3) 道徳教育	⑧ 道徳教育の充実	・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。	C	B	・「あいさつがいいな」と子どもたちが感じられるよう、道徳や生活場面の中で、声掛けをしていくようにする。 ・11月の参観で道徳科の授業公開を行った。また、週1回道徳の授業を行い、子どもたちが日常生活を振り返ることができる時間を設けた。道徳で学んだことを生活の中で生かしていきけるよう、声掛けを続けていきたい。 ・道徳の授業についても、指導力を向上させる取組が必要。 ・「自分から」あいさつできる子にするための取組は？ ・地域の方へのあいさつについては、「自分から進んで」となると、できていないと地区別児童会の反省点であげている児童が何人もいた。 ・働き方改革の一環&SDGsの観点より、以前から使用した場面絵の保管が提案されているが、学年により保管数に偏りがあるように感じる。不公平感が出ないように、どの学年も一定数の教材の保管に努めるべきである。 ・週に1回以上の授業を行い、子どもの気持ちを上げることで、子どもたちの心の充実につながっていると思う。 ・あいさつ運動を実施してきたのに、あいさつが少なく感じる。こちらからしてもかえってこない時もあるのが残念。地域でもできているのだろうか。 ・学年部で道徳の授業を見合えることが1回でもあると、学年部の児童の様子がよく伺えたり、その後の授業の相談ができるきっかけになるかもしれない。 ・「自分からあいさつする」は、本人がしたいと思う人にだけしていると感じる。、学年に応じてあいさつについて考える場面を、毎年必ず設定していく。 ・校内でのあいさつは積極的にできていると思う。
	⑨ あいさつの充実	・家の人や近所の人、友達などに自分からあいさつできる児童の割合を80%以上にする。	C	C	
(4) 特別活動	⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実	・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしているようにする。	B	B+	・自分の思いを発表できる場を学級会やその他の授業の中で設定するようにする。 ・学級会も十分とは言えないところがあるので、参観し合うなどして指導力を高める必要がある。 ・2年生という学年ではあったが、自分たちで話し合いをして、折り合いがつけられるように学級会をして練習してきた。がんばった会などの「遊び」については、自分の思いを通してかみ通がきかず喧嘩口調になってしまうこともあった。その都度繰り返す中で、少しずつみんなが楽しめるように自分の考えや思いを柔軟に考えられるようになってきた。 ・子どもたちがよりクラスが楽しくなるように工夫して係活動を行うことができた。 ・高学年のよい動きを作っていたので、よい縦割り活動になっている。 ・4年生以上は、代表委員会もあり、充実している。委員会やクラブも、子どもたちから自主的に動いているのがよい。 ・代表委員会やたてわり活動は、予め年間計画に入れておき、担当者や児童の負担過多にならないようにする。 ・たてわり掃除の計画・次の場所への引継ぎについて明らかにしておく。 ・委員会活動は特色ある内容が表れてきたが、できるだけ児童の力で進められるように計画していく。 ・異年齢との交流は、いろいろな学年と行えるように工夫をしていく。 ・縦割り活動が有効的に作用し、積極的な活動がされている。
	⑪ 勤労や奉仕の精神を培う生活指導の充実	・自分から進んで、時間いっぱい掃除ができる児童の割合を80%以上にする。 ・係活動、委員会活動に進んで取り組む児童の割合を80%以上にする。	B+	B+	
	⑫ 豊かな人間関係を培う、交流活動の充実	・異年齢の集団との交流活動を意図的・計画的に実施する。	B	B+	
(5) 人権教育	⑬ 人権尊重の精神と実践的態度の育成	・年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。(いじめ防止) ・友達のよさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。(「今日のキラリ」「ほめ言葉シャワー」などの取組、ノートの書き方賞賛の掲示など) ・教室に掲示する児童の作品には、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。	B	B	・自分自身が自身を認めあげないと他者を認められないので、その子自身が自分が好きになれるよう、自分のよさを自分で挙げたり、友だちに教えてもらったりすることも大切だと思った。 ・学級通信で人権週間での取り組みの様子を知らせた。子どもたちが普段から人権意識をもって生活できるようにお家の方への啓発は大切であると思う。 ・指導者自身の人権感覚を磨き、日常でアンテナを高くして過ごすよう心掛けたい。 ・「わかる」「できる」といったことを認め、少しでも前回よりも成長があれば褒めるように声をかけたり、子どもたちの前で紹介するなどした。 ・互いの人権を守る環境は安定しているが、固定化された人間関係の良し悪しが、子どもたちの心身に影響があると思うので、緊張が見守る教師の柔軟な見守りが必然だと思っています。 ・ロシアとウクライナの戦争が、断片的な知識としてのみ子どもに入り、聡明だと思われる児童が遊びの中で、「〇〇ちゃんにはウクライナ人だから死ぬの」みたいな発言があり、その場でどういふことが尋ねたが、以前のように「いのちの学習」や「平和教育」に時間をかけていない現状が心配である。 ・時間と心の余裕がないと、児童の作品へのコメントまで手がまわらない。児童に直接関わることなので本来優先順位が高いはずだが、いつも不十分になってしまっている自分の動きを見直さなければいけない。 ・帰りの会のキラリで、してもらったことだけでなく、これからどうしていくか意見するのよいことだと思ふ。平穏な中にも、気になる言動を見逃すことなく、アンテナを立てていきたい。 ・各学年の人権宣言は、学級開きを受けて1学期末あたりに方向性を掲げ、1年を通した取組を12月に報告するようイメージをもちたい。また、人権意識を高める学びは、実態も含めて学年通信などで保護者へも発信する。
	⑭ 保護者・地域と連携した人権教育の実践	・人権にかかわる取組について、学年だよりなどで紹介し、保護者への啓発を行う。 ・日常的に、人権に対する意識を高める指導を継続的に実施する。 ・人権週間、全校的な取り組みを通して、人権意識を高める。	C	B	
(6) 環境教育	⑮ 共生を目指す環境教育の充実	・SDGsの17項目の視点を意識した活動を仕組む。	D	C	・SDGsとは何か？考えられる場面や授業等を設定し、指導するようにする。 ・自分自身も興味を持ち、実践を心がけようとしてきたが、児童に考える場をつくれずきつてしまっている。 ・子どもたちから発信していく授業構成になっていて、発表がたくさん聞けるのがよい。 ・SDGsの枠に学習した単元を落とし込む作業をすると結びつきが明確になってくるかもしれない。(児童にやらせてもよい)
(7) 国際理解教育	⑯ 多文化社会に生きる国際理解教育の推進	・ALTによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。	C	B	・ALTの母国の文化、知っていることについても授業の中に、取り入れていくようにする。 ・マーク先生の英語の時はアメリカの文化など分かる範囲で子どもたちに話してもらおうなど、文化の違いがあること、違って当たり前であることを伝えるようにした。 ・ALTが替わることはないが、出身地や個人のこと等教えてもらえて、子どもたちも親しみがもててよい。 ・外国語の年間の計画に、異文化を学ぶ時間もプラスして入れておくとよい。
(8) 生徒指導	⑰ いじめを許さない集団づくり	・学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 ・「いじめはいけない。ゆるさない。」という学級風土を築く。 ・いじめをしない、させない、見過ごさない行動をとる児童の割合を90%以上にする。	B+	B+	・気になる言動については、その時、教師が直ぐに判断し、指導や声掛けを行う。 ・小学校でのルールについて細かく指導をした。「守らないといけないから」ではなく、「なぜ守らないといけないのか」について考えさせるようにした。特に、廊下で走り回って遊んでいる子が目立った。日が経つと、意識が薄れてきている子もいたため、声かけをしていく必要がある。 ・いじめを許さない学級風土を築くためには、指導者の姿勢が大きく影響する。「いじめは許さない」という強い思いをもって、日々の指導に当たりたい。 ・教育相談週間などを通して、児童の気持ちを知るきっかけになってよかった。今後も定期的に続けていきたい。 ・学級が安心できる場所であることが第一なので、少しでもおかしなところがあったら、子どもたちと話し合う時間を大切にしたい。 ・子どもたちの困り感が少しでも解決できるように、個別に話をするなど一人ひとりを大切にしたい。 ・小さな集団であることへの妥協さに固定化されないように、常に新鮮な目で子どもの姿を見るように意識を高く持つようにしたい。固定化されている様子を感じる。 ・子どもの姿に裏表があるというわけではないのだが、親しいが故にお互いが失礼な言動を許してしまっている現状がある。あるいは、その言葉の持つ意味を理解していない場面が多くなっている。トラブルが少なかった故、考える機会を逸してきたかも知れない。 ・改まった場面ではなく、今日はこの子と話したり、この子の様子を観察したりしようという形で、子どもを知ろうとしてきたが、まだ、不十分である。 ・少人数の中、固定化した個人を見る目があり、人間関係のこじれがあると長引いてしまいます。相手を多面的にみられ、個性と
	⑱ キャリア教育の充実	・学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。(キャリアパスポートの実施)	C	B	・子ども自身が頑張りやを振り返り、教師、友だちが認め、次のステージに行けるよう指導、声掛けを行っていく。 ・高学年の姿にあこがれる実態が何よりのキャリア教育になっている。 ・キャリア教育とからめられる場面は数多くあるものの、指導者サイドが意識できていないことにより、見過ごしてしまうことが何度あった。「キャリア教育」単体で考えるのではなく、キャリア教育とからめられないかという視点を常に頭の片隅に置くようにしたい。 ・時間がなく、キャリアパスポートの活用が十分にできていなかった。もっと自分の良さ確認のためにも、活用を図りたい。 ・人との出会いが、今後の自分の生き方に変化をもたらすことが多い。迎えたゲストティーチャーの記録を渡し、今後の学びに
(10) 特別支援教育	⑲ 特別支援教育の充実	・全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 ・必要に応じて支援体制づくりを行う。 ・学期1回以上の特支推進委員会を実施する。	B+	B+	・子どもたちの困り感を教師が気づき、授業の中で困らないよう、言葉を選んだり、手立てを用意したりする。 ・個別の指導・支援計画を作成した。保護者の方も連絡帳や電話で密に連絡をとり、連携を図った。学期末懇談会では、1人ひとりの個性を大切にしながら、その子の生きづらさが少しでも前向きになれるようにいろいろな機関を通してアドバイスをもらうなどした。 ・発達検査のフィードバックの結果が、有効に働いた事例があり、ありがたかった。 ・常に、支援計画・指導計画を見直し、適切な指導・支援を行ってきたい。 ・個別支援ファイルのある児童については、毎学期末に、支援の成果と課題を特別支援委員会で話し合い、今後の方向性を確認した上で保護者へ伝えていく。
	⑳ 個別の教育支援計画の作成と活用	・個別の教育支援計画を活用する。 ・各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と懇談し、適切な支援・指導に当たれるようにする。	B+	B+	
(11) 保健安全	㉑ 安全教育の充実と安全管理体制の整備	・月1回防犯ブザーの点検を実施する。 ・児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハットした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。	B	B	・3年生社会科「安全マップづくり」の取組を、他学年にも付箋で危険箇所を書いてもらうことで、町の中の危険回避を考える機会にする。 ・学校での大きなけがが少ない。安全に楽しく学校生活を送れている。 ・朝ごはんを食べてきている子はほとんどだが、内容や量が気になる子どももいる。保護者に呼びかけを続けていきたい。 ・早寝をするとなぜよいのかということ子どもたちと話し合いながら、伝えてきた。 ・防犯ブザーの点検だけでなく、いかのおすしー人前のキーワードを紹介したり、自分のヒヤリハットな経験について伝えることで、安全意識が高まるようにしている。 ・給食がしっかりと食べられる子が多く気持ちよい。 ・中学進学を視野に入れて考えると、基本的な生活習慣が確立されているとはいえない。まずは時間の意識を養育、徹底させること(教員が教室にいる時には自分たちで号令をかけるが、いない時には教員が来るまで遊んでいることが多い)から始め、その他の生活習慣に関しても、もう一段階上を目指したい。 ・トイレから遠い教室ほど廊下を走る傾向があり、トイレ前で滑ってこける子も見られるので、注意するよう声をかけている。
	㉒ 基本的な生活習慣の確立	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。	B-	B	・どの学年も学習の中で安全についての内容を扱っていることで、そこで日常生活と結びつけ、危機意識を高めていく。 ・児童が取り組んでいるメディアコントロールの様子や就寝時間などの生活リズムをクラス内で交流することで、基本的
(12) 研究・研修	㉓ 教職員の資質・指導力の向上	・児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。(確かな学力・主体的に学ぶ力の育成) ・常に学び続ける教師をめざす。(授業改善に向けた校内研究6回実施) ・研究授業で学んだことを普段の授業に生かす。(日々の授業改善)	B-	B+	・校内研修会の実践交流会の資料を作る中で、研究授業で学んだことを振り返ることができた。 ・資質・指導力向上の指導は重なるが、なかなか結果に結びつかず、自分の指導力不足を感じる ・個人情報の管理、日々の記録については、もっと意識を高めていく必要がある。 ・使ったものは元通りに返す、共有場所は整理整頓するなど、忙しい日々の中ではあるが、みんなが気持ちよく働ける環境づくりを一人一人が心掛けたい。 ・自分が納得できるまで考えるスタイルは貫いてきた。事前も事後もやはり学びが多いので、いろいろな先生方からアドバイスがもらえることで力になっていくのでありがたい。 ・研究会も活発に運営され、講師の先生も継続して、関わってもらえていることで、繋がりも強くみんなで学びを深められていると感じる。 ・教頭先生をはじめ、多くの先生に支えていただきながら、どこで子どもたちに考えさせるのかや、時間をかけるポイントについて考えることができてきている。 ・他の先生方に助言できるような実践ができていないので、引退間近でも学び続ける必要のある仕事だとつくづく思う。 ・授業改善の難しさを改めて感じた。日々自分が行っている授業がどの次元にあり、どこにメスを入れるべきなのか明確にならないと、なかなか変化が望めない。「教員はファシリテーターの役割」とは言うものの、「ティーチャー」が土台にあって初めてファシリテーターの役割が機能するものだと思うので、自分自身がしっかりと教えられる技能をもっておくことはやはり大切だと思う。 ・指導案、授業作り等大変勉強になった。また、打ち合わせや職員会議等で、伝達していただけるのもありがたい。
	㉔ 教職員の危機意識の高揚	・不祥事防止研修、人権教育研修、危機管理研修を計画的に実施する。 ・危機管理マニュアルの周知。 ・シエイクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。	B	B+	・学級通信・電話・家庭訪問等、子どもの思い、お家の方の思いや教師の思いを交流できるようそれぞれの方法を使い分けて活用する。 ・剪定や除草、水やり、くりみフェスタなど、地域の方々が協力的で本当にありがたい。ボランティアさんにお世話になっていることをもっとアピールし、教職員や児童が意識できるようにしていく必要がある。 ・保護者の嬉しい、思いには耳を傾け、同じ目線で安心してもらえるように連絡を密にした。 ・若い頃は、保護者さんからもいろいろな声がかけてもらったのに、やはり年齢を重ねると話しくくなるのかな、と思う。
(13) 地域との連携	㉕ 保護者・地域との連携	・保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 ・全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 ・ふるさと「くりみ」が好きと答える児童の割合を90%以上にする。	B	B+	

	㉗	ホームページによる情報発信	・ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。	A	B+	・家庭的におもしろい中ぐも、協力的に取り組んでいくにさ、めりかにく思っている。 ・ボランティアや地域人材の活用視点で、保護者に積極的にお願いしていくことで、学校理解や地域理解に結びつくだらう。
(14) 施設・設備	㉘	施設・整備の安全確保	・月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。	B+	B+	・普段から学校設備の変化に意識するよう心掛ける。 ・校舎が古いのは仕方がないが、教室の鍵が閉まらなかつたり、雨漏り（壁から雨が漏れる）があつたり気になるところがたぐさんある。私自身も子どもたちも物は大切に使うことを伝えていくことも大切である。 ・活動したものを広げておけるスペースがない。大規模改修の期待ができないとしても、あと1部屋欲しい。また、今年度、骨折して松葉つえや車いすを使う子が何人も出たが、エレベーターやスロープがないのは具合が悪い。 ・学期末か長期休業中に教材室や特別教室の整理整頓をすることで、整備や活用につながる。 ・市教委予算による防水工事等がすすみ、施設の改修が少し進んだ。 引き続き要望を続けていきたい。
	㉙	学習環境の整備	・学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。	B+	B	
(15) その他	㉚	幼児児童生徒の満足度	・楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。	B+	B+	・子どもたちは、どんな時が楽しい時か考えたり、子どもたちの様子を見たりして、教師が気付けるよう心掛ける。 ・「学校が楽しい」となるように子どもの話は目をみて聞くなど、子ども一人ひとりを大切にするよに心がけた。 ・小規模校ながら、不登校児もあることをしっかりと受け止めて、児童一人一人に目を向けて北小の特徴のある活動を仕掛けていくように、もっともっとしていくとよいと思う。
	㉛	保護者の満足度	・我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。	B	B+	・どの子をよーく観察しても、楽しそうにしている場面が多いと思う。「この子たちと過ごす幸せを感じる」という前担任の言葉が実感としてわかる。